

令和6年 能登半島地震体験レポート

新田建築設計 新田秀逸 [R7.1月寄稿]

●被災後の状況について

令和6年1月1日午後4時11分の能登半島地震発生より1年、2025年1月1日不安の中での新年を迎えることができました。TVで追悼式典を見て家族みんなで犠牲者に黙とうを捧げた。涙が止まらなかった。

2022年6月、そして2023年の5月5日に襲った地震で、珠洲市内の多くの住宅で部分的な被害が多くありました。修復工事なかばで追い打ちをかけるように今回の令和6年1月1日に大地震が発生してしまいました。

地震発生時 私は市内のお客様の家で耐震補強の説明中に被災しました。

揺れが納まり外に出てみると山が崩れ、電柱が傾き、送電線が垂れ下がり、道路の大きなひび割れ、家屋の被害の大きさに、大変な災害の発生が分かりショックを受けてしまいました。

家族の事が気になり、携帯電話は何とかがつながら長男と妻は自宅にいて、娘二人は孫をのせて寺家方面に出かけていて、津波警報が出ていたので心配でしたが、地元の方に安全な場所まで誘導してもらいました。その後、ある方が日が暮れ泣きじゃくる孫の事を気にかけて下さり、道路の倒木やがけ崩れなどがあり非常に危険な状況にもかかわらず、指定の避難所まで送っていただいたと聞きました。お名前はいまだに分かりませんが感謝しかありません。自宅・事務所共全壊でした。やっとの思いで家族が合流した後、自動車が使えないなか指定避難所に向かいましたが、避難所の建物が被災ですぐには使用できない状況で、避難された方たちは中に入れず、外に焚火をして開設を待っていた状況でした。その後、

孫の事を考え妻の実家が大丈夫と聞き、歩いて実家まで向かうことにしました。

切り裂かれた道路、土砂崩れ、傾いた電柱や垂れ下がった送電線、引き裂かれた道路に何台かの自動車が放置されていました。時々之余震もあり危険を感じながら、外灯も電池もなく、携帯の明かりで暗闇の中を安全を確認しながら約1時間の移動でした。外灯にも非常灯があればと思いました。

その後 津波警報が出ていたので、家族と義父母と一緒に緑ヶ丘中学の方へと向かい、その後避難所として利用いたしました。

2日以降小さなお子様のいる方から、順次エアコンの設置されている、教室に移動の連絡をいただき、ひとまず寒さをしのぐ事が出来ました。

支援物資が中々到着せず、当初はおにぎり1個を2人で分けての配給でした。

支援物資が届くまではただ1件だけ被災しながらも営業をしているストアーがあり、多くの人で混んではいましたが食べ物や飲み物を買入れする事が出来、多くの方々が救われた気がします。

仮設トイレが到着するまで、校舎トイレの利用でしたが、水が出ないので、係の方々から衛生面からの注意、利用方法などを説明に来られたりするのですが、なかなか浸透しなかったように思いました。普段から被災した場合の一人ひとりの非常用のトイレの使用法などを機会があれば、伝えてゆく必要性がまだまだあるのではないかと思います。

半島であるがゆえの難しさもあり 3日から4日頃より自衛隊の方々による、物資の輸送や道路修復や救難活動が少しずつ増えてきました。

家屋棟倒壊によりご家族が生き埋めになっている

方の呼びかけをしている方や消防署への電話がつかない、かからないと、助けを必死に叫んでいる方にも遭遇しましたが、一人ではとても無理な状況でした。他の多くの方も同じような遭遇をしていると思います。

近所の方の被災状況にもよりますが、消防署や救急機関が機能しない場合、力になってくれるのは近所の方々だと思います。

身近な5件の集落ですが今回の地震で全壊になり生き埋めになった方がいましたが、一人住まいの方で令和5年の5月の地震でかなりダメージを受けていたものの修復がすすまず、心配でみんなを確認したところ全壊で、倒壊した家屋から救出ができました。最後に力になってくれるのは身近な人で普段から挨拶や近所付き合いを大切にすることが大切だと思いました。

被災後 珠洲市から金沢・白山市・河北郡を中心に働き手の若い人達の流出が進んでいます。自身の家屋の倒壊により住む所がなくなり、子供や家族を養うために転出を決断された方、家は住めそうだけど被災後直ぐに職場の解雇通知により、転出を決断された多くの方がいます。

極端に言うと現状の段階では珠洲市内に残っている方々は役所の方、高齢者の方々、建築・土木関係の方々しか残っていないのではと聞きます。

解体・撤去が進む中で先行き不透明のまま、不安のまま住み慣れた町の建物が無くなり、人々の気配がなくなった町の廃墟化と若者を中心に流出が進む中で、正直なところ珠洲市の復興を心配しています。



珠洲市正院町正院地内



宝立町鵜飼地内



建物解体処分場蛸島町地内

参考までに自身が手掛けた耐震補強済の家屋被害状況について、少しばかり報告をしたいと思えます。

- 珠洲市内で 木造平屋建て 正院町 在来工法 築年が昭和 32 年
- 珠洲市内で 木造 2 階建て 正院町 伝統工法 他 1 件 正確な築年数不明



令和 6 年 1 月 1 日能登半島地震 地震後

(構造用合板 コボット 制振装置ガルコン 基礎補強 補強工事 2021 年完成)

- 珠洲市内で 木造 2 階建て 正院町 在来工法 他 2 件 築年が昭和 54 年
- 能登町 木造 2 階建て 真脇 在来工法

地震後、手掛けた家屋を見て回りましたが、倒壊した家屋はありませんでした。

ただ新築時地盤改良をしていない物件がほとんどで、基礎のひび割れや沈下による床の部屋中央の浮き上りや建具の開け閉めが出来なくなった物件もありました。

最後に、今回の地震で倒壊を免れた住宅の補強、補修を少しでも早く取りかかりたいと思っている方々が多くいらっしゃいます。

復興迄には長い戦い、時間がかかりそうですが、建築に携わっている一人として微力ながら力を注いで行きたいと思えます。

皆さんひとりひとりの能登への思いと、お力をよろしくお願いたします。



復興に向け耐震補強工事を開始